

神奈川山梨教会連合会たより

かりん

「日々の御用を大切に」

福田俊介先生は、現神奈川教会長福田光一先生・明先生の第二子、長男として平成元年10月11日に埼玉県川越市でお生まれになり、川越教会で育ちました。

そして、中学校を卒業して、高校進学が契機となって、神奈川教会に入られました。平成24年、金光教学院に入学、翌年、教師の補命をいただかれました。

○川越での思い出は、何かありますか。

俊介先生（以下俊）…川越では、楽しいこともたくさんありましたが、逆に辛かったこともありました。

○高校は、鉄道関係の学校に行かれたと伺っていますか。

俊…そうです。鉄道が好きで、将来は鉄道マンになることが夢でした。

ところが視力が弱かったため、鉄道マンの夢は叶いませんでした。

今でも鉄道を見ていると、心が落ち着きます。

○その後、金光教学院に入学されますが、

そのきっかけは何だったのですか。
俊…家族で夕食をしていた時、いきなり姉が「教会は誰が継ぐの」と言い出したのです。突然の話に「自分がここで手を上げなければいけない」という心境になって、雰囲気もあって、学院に行くことを決意しました。

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第49回 神奈川教会 福田俊介先生



大学を中退して、学院に行きました。

○そうですね。突然のお姉さんの言葉に、動揺はなかったわけですね。学院生活はどうでしたか。

俊…関東から6人学院に入りました。特科にも一人入ったので、関東から大勢の学院生が居て、和気藹々とした雰囲気の中で楽しく学院生活を送ることができました。

今でもつながりがあります。

○現在、教会で任されている御用はあるのですか。

俊…特に今は、教旗をポールに取り付けて掲げる御用と取り外して仕舞う御用、夕方のご祈念の先唱を担当しています。

○教会以外の御用を積極的に受けておられるようですが。

俊…教会には、教会長の父も居りますし、母も居りますので、教会外の御用も頼まれると受けています。

○どんな御用を現在されているのですか。

俊…現在は、首都圏参拝団の委員、首都圏フォーラム事務局員、全国青年教師連盟の委員等、また昨年からは、青年教師会の委員長もさせてもらっています。

○頼まれた御用はみな受けて行く姿勢は、偉いと思いますが。

俊…でも、ある先生から警鐘を鳴らされたことがあります。「御用を選んだ方がいいよ。選択するのも大事だよ」と言われました。

○御用を通して得るものも多いと思うのですが。教会内外の御用をとおして、今感じてもらえることがありますか。

俊…教師になって、まだ6年と浅いですし、今後御用を通して、自分が教師としてどうあればいいのか、教会がどうあればいいのか、段々に見えてくると思っています。

淡々と御用を進める中で、見えてくればいいかなあという感じです。

○ありがとうございました。（南 清孝）

立教一六〇年 教師信徒共励会報告

3月2日(土)、「立教一六〇年教師信徒共励会」を藤沢教会を会場で開催し、25名が参加しました。

まず、安武実子さん(小田原教会信徒)が「信心の喜びを伝えよう」というテーマについて次のように発表しました。

「私は祖父母から三代目の信心になりました。小学生の頃より家族で教会に参拝をしておりました。結婚を機に小田原教会にご縁を頂き、長男のアトピー性皮膚炎や夫との関係を御取次いただき、少しずつ御陰を頂き、今日では輔教にならせてもらい、欠かさず日参をさせてもらっています。

日参をするにあたって、先生が一生懸命御祈念下さり、助かって欲しいと願って下さる中で、参拝するこちらも、ただお参りするのではなく、神様、御霊様、先生の願いを受け、一つでも信心を分かせてもらわなければならぬことに気が付きました。すると、今まで何度も聞いたはずの御教えが、心にすつと入ってきたり、教祖様の御事跡の意味や、今までわからなかったこと、言葉は知っていたことの本当の意味が分かるようになりました。

その日々の日参の中で、厳しかった父の願いや、夫とのこと、子どもたちとのこと

におかげをいただき、何より自分の心が元気になっていくのを実感しています。次は子ども達に信心が伝わるよう、日々ご祈念しています。」

次に横山光雄先生(丸子教会)が「お道の仲間をつくろう」というテーマで次のように話しました。

「ある女性は、突然、信心のないご主人から離婚すると言われて、困り果てて教会に来られました。熱心に信心をしているつもりだったのですが、不足の心が強かったのです。私は御取次をさせていただきました。夫婦で教会に来るように言いました。女性は夫を連れて参拝して来られましたので、私は、お互いの不足を存分に言わせ、次にお互いの良いところを言ってみるようになり、た。すると、お互いの口から相手の良いところが次々と出てきたではありませんか。それを聞いた2人は、今までとは違う受け取り方ができ、お互いが理解できるようになりました。ご主人が信心を理解するようになりました。ご主人は参拝はしませんが、私は信心の仲間ができたと思っています。」

この発表を受けて、参加者は2つの班に分かれて楽しく懇談しました。金光教のすばらしさ、信心することの喜び、信心とは何か、などを語り合い、学び合いました。最後に、藤沢教会長の高橋健雄先生が感話を述べ、有意義な会合となりました。

(山田信二)

○かりんの輪

「ありがたい『御神米』」

鎌倉教会 伊藤かおる

教会のお結界でお届けをさせていただき、御神米を下げてください。

教祖様ご在世中からお下げになっていたことで、各教会に於いても当たり前前の光景です。

自分や家族などに起こってくる様々な事柄をお届けし、お結界にて御神米をいただくことで、まずは、心の落ち着き(神様)を感じるようになって、友人や知人のこともお取次をお願いするようになりました。

金光教のことを知らない友達にも、子供の頃に知らずに吸っていたアスベストが原因で、50代で肺中皮腫になったときも御神米をお届けしました。

片肺全摘出となり、仕事も出来ず治療を受けながら生活しているときに数分間会うことが出来ました。その彼の口から出た「ありがとう」の一言は、今でも忘れられませんが、(本当は、自分の弱った姿を見られたくなかったようですが……)

何年間も辛い治療に耐えたにも関わらず、数年後、60歳でこの世を去りました。とても悲しい出来事でしたが、奥さんである友人も御神米のことは大切にしてくれてい

ビジネスセミナー

が開かれました

本年度1回目の本セミナーを、3月31日(日)、かながわ県民センターにて開催しました。テーマは「個性を活かすダイバシティー(多様性) マネジメント」。最近注目されているテーマです。講師は高橋章浩さん(日本橋教会信徒)。出席者は正規メンバーの65歳以下が7人(内教師2名)、オブザーバーが4人でした。参加人数が少なかったのは、ご本部の天地金乃神大祭の日程調整で都合のつかなかった方もおられたからかもしれません。

参加者の自己紹介や挨拶の交わり方について講師から話題提供があり、お互いの顔を見ないで描いてみたり、どんな色が好きかを想像してみることを通して、価値観、生き方、センスなど、ちよつと見て分からない部分が大事であり、人による違いをどうマネジメントしていくかを企業が大事にする方向になっているということでした。さらに人種の違いや仮想通貨が使えるか、働き方改革に関わって、テレワークも今後はありの社会になっていくなど、多様性の社会の方向は文字通りいろいろであろうというものでした。

講師は「違いを受け入れる能力」は「ダイバシティー(多様性) マネジメント」そのものと考えて、教祖の教えを列挙されま

した。

◇信心する人は、わがことより他人のことを先に願え。そうすれば他人も助かり、我が身にもおかげが沢山あり。◇信心する人は、人に頭を叩かれても「私の頭は痛みませんが、あなたの手は痛みませんか」という心になり、また、頭から小便をかけられても、ぬくい雨が降ってきたと思えば楽しいや。◇何事も人に負けてさえおれば悪いことはないぞ。◇水を使うには、桶屋が調えた道具を用い、食べ物を煮るには鍋釜を用いる。この鍋釜は鋳物屋が調べ、その他、人間が食い、飲みする道具あまたあり◇人間にはへだてがあるが、神には殿であろうが職人であろうが上下はない。信心する人がおかげをいただくのであるから、そのつもりで今後は一心に信心せよ。◇人間を軽う見な。軽う見たらおかげはなし。

3班に分かれて30分間、それらの御教えをどう理解するか討議し、発表しました。

最後に講師から、企業のダイバシティーに関わる最近の取組みをいくつか紹介されました。AI、IoTなどの手法、H社のリモートワーク、S社の自分の進路は自分が決める、M社の多様性に対応をしない人はいらぬ、B社の男女を分けぬ、などなどの紹介もあり、具体的なビジネスのトレンドを学びました。

次回は9月29日(日)です。ぜひご参加ください。

(辻 秀志)

ます。間違つて御神米を洗濯物と一緒に洗ってしまった、あわてて必死でかき集めたと聞いたときは、笑いながらとても嬉しかったのを記憶しています。

人間の力では太刀打ちできない問題が起きたときに、ただひたすら神に祈ることしか出来なかつたのですが、御神米を通して思いは伝わったのだと思います。

その時のことを思い出すとき、自分の今の頂き方は、慣れてしまつて本当に有り難く頂いてるか?と自問自答してしまいます。日本という国に於いて食物の代表であるお米を「御神米」として神様から下げていただくものとしているのはとても意味深いことです。

我が家では、ご飯を炊くときに何粒か入れさせていただいています。お釜の中のご飯全体が御神米になると信じています。また、ここぞというときにも数粒、そのまま頂くことで神様を味方につけた気持ちになつていきます。神様を心に頂き続けるためにも「御神米」は、ありがたく肌身離さずしていきたくなるものです。

この原稿を依頼されて、改めて広島県芸備教会長であられた佐藤一夫先生の『御神米のはなし』という冊子を開かせていただきました。初心に戻って頭の中でイメージ出来たのもありがたいなあとつくづく感じました。

第 25 回首都圏女性の集い

が開かれました

首都圏女性の集いは、毎年 2 月 11 日の祝日に開かれている。再会を喜び合う姿も見られ、賑やかな中で会は始まった。

今年は、講師の辻井栄里さんが、金光教東京学生寮の主事で、東光合唱団のご指導もされているということもあり、その関係の方も加わり、久しぶりに百人近くの参加者で、会場にあふれるほどの盛況の中、講師の子育てに関する強烈な体験談を涙々で聞かせていただいた。

悩みの多い子育てではあるが、辻井さんも大変なご苦労をされた。講師の叫びのような言葉が会場の参聴者の心をふるわせた。そんな体験と時期を同じくして、悩んでいる寮生を励まし続けているうちに、自分を励ましていくことに気付き、その時から、心配は神様に預けよう、笑顔でいよう、やらなければならぬことを淡々とやっていこうと決められたとのこと。

子育ては自分育ち、これからは失敗を生かして、悩んでいる人の力になりたいと結ばれた。

(吉岡裕子)



【お知らせ】

○みんなのつどい

さくらんぼ狩り

・日時：6月2日(日) 8時

金光教神奈川教会集合・出発

・会場：伊藤農園

・参加費：-

神奈川県から大人 4500 円、

高校生以下 2500 円、未就学

児 1000 円

山梨県から大人 2000 円、高

校生以下 1000 円、未就学児

無料

○立教一六〇年教師信徒研修会

・日時：7月13日(土)

13時～15時20分

※12時半受付開始

・会場：かながわ県民センター1304号室

・講師：高橋昌之師

(教学研究所第2部長/岡山教会)

・講題：それぞれの「立教」

※詳細については

各教会宛の案内をご参照ください。

「如何なる事も全て神様にお任せをする」

生麦教会 高橋正一

女房が、一月十二日に心筋梗塞で別の世界への橋を渡りかけました。お取次を頂き神様のお力を賜り、二回の手術を経て退院させていただきました。日頃より神様のお取り計らいにお任せしておりますから、今回も安心してお任せし、見守る事が出来ました。

三十一歳の時に火事に遭い、全焼。最愛の娘を亡くしました、神様のお力を賜り再出発出来ました。が、神様から次々に災難をいただきました。死んだと思われた高速道路での大事故、女房の自転車衝突転落事故、この一連の大災難を、何十回も振り返り、掘り下げ考えた時、神様の願いに気付かされました。

★神様が脚本を書かれ、その筋書き通りに取り運ばれている。★人の生命、死は如何なるものかを知る。★神様は、三六五日、四六時中、五感を通して、お知らせ、差し向け、お練り合わせ、お試しを下さっている。★災難も善い事も同じお陰で、神様の最高のご褒美である。★神様は前々の巡り合わせで災難を与えるが、悪いようにしないから受けてくれ、必ず先の道立ては付けてやると思召し下さっている。

そのような気付きから、「全てが神様の取り計らいである」と受け止め、「如何なる事も神様にお任せする」信心を育てていただいています。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信 二

横浜市泉区下飯田町 926-23

〒245-0017 金光教横浜西教会内